MAIBUN SAITAMA

埋文さいたま

埼玉県の遺跡と出土品の情報誌

No.61

行田市 埼玉古墳群二子山古墳（古墳時代）

特集 人と馬をつなぐ
－県内出土古墳時代の馬具－

さいたま発掘情報（2017年1月～12月）

平成29年度文化財収蔵施設 新収蔵資料

まいぶん探訪 伊奈町立郷土資料館

埼玉県マスコット「コバトン」

彩の国 埼玉県

監修／発行 埼玉県教育委員会
企画／編集 公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

特集

人と馬をつなぐ
―県内出土古墳時代の馬具―

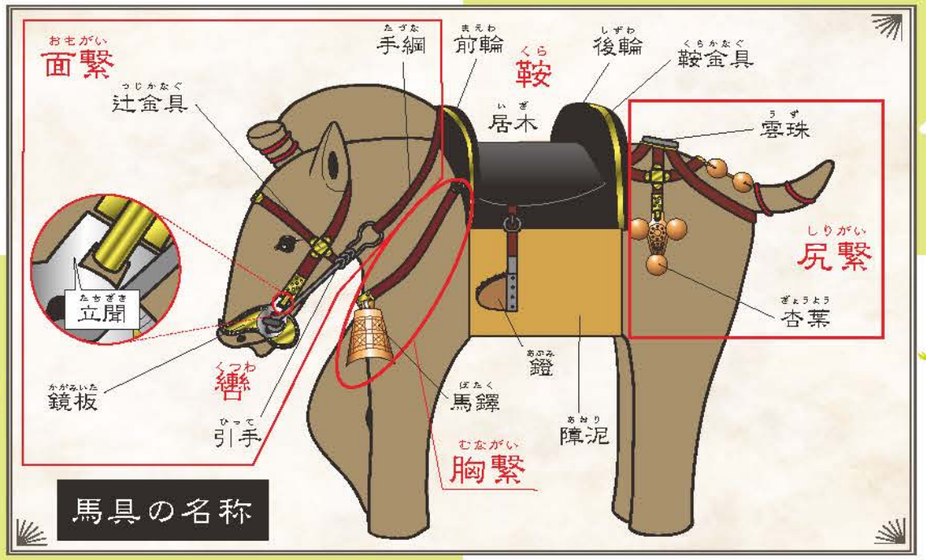
人は、多くの動物たちとともに歴史をつくってきました。それは、遺跡から出土する動物を表現した資料（土製品や埴輪など）から想像することができます。そうした動物たちの中で、最も人の歴史に影響を与えた動物のひとつに馬がいます。ここでは、古墳から出土する馬具をとおして、人と馬との関わりを探ってみたいと思います。

馬具とは、馬の装具で、轡・手綱・鞍・鐙などの総称です。これらの馬具をつなぐ面繋・胸繋・尻繋と呼ばれるものがあります。

面繋（頭絡）…轡（銜）を固定するために馬の頭部に取り付けます。

胸繋…馬の胸部から鞍（前輪）に装着します。

尻繋…鞍（後輪）から馬の尻部に装着します。



鞍は、木製の居木、前輪、後輪などから構成され、騎乗者を安定されるための馬具で、輪鐙や壺鐙がつきます。

鐙は、騎乗者が足を乗せ、騎座を安定させる以外にも、乗降の際の足がかりとなります。

轡は、馬を制御するためのものです。馬の口内（歯槽間縁）に入れてかませる銜と、銜先に取り付けて手綱と連結するための引手と、銜の両端に取り付け銜留めの役割を果たす鏡板から構成されます。

鏡板の形状から、ｆ字形鏡板付轡、楕円形鏡板付轡、環状鏡板付轡などに分類されます。

杏葉や馬鐸は、胸繋や尻繋の帯部分にペンダントのように吊り下げて馬を飾ったものです。

雲珠や辻金具は、面繋などの革帯が交差する箇所に取り付けて革帯を固定させた金具です。

埼玉古墳群出土の馬具

古墳から出土する馬具や馬形埴輪の存在から、家畜化された馬が、日本列島に定着するのは、４世紀末から５世紀初頭ごろと考えられています。埼玉県内でも５世紀後半ごろから馬具の出土が確認できるようになります。県内の出土例（特に轡）で、もっとも古い時期のものと考えられる資料が、稲荷山古墳から出土したｆ字形鏡板付轡です。この他にも、埼玉古墳群では、将軍山古墳から馬具が出土しています。

稲荷山古墳（行田市）

写真提供・埼玉県立さきたま史跡の博物館

ｆ字形鏡板付轡

鏡板がアルファベットの「ｆ」の字をしています。鉄の地板に金銅板を張りつけ、縁と鋲が、鉄地銀被せになっています。

鈴杏葉

３個の鈴が付いた三鈴杏葉で、鋳造による青銅製です。鈴の中には、石製の丸が入っており、鈴としての機能があります。

辻金具

革帯が十字に交差する箇所にとりつけた金銅製の辻金具です。

壺鐙

鉄製の吊り手部分だけが残りました。

鞍金具

鞍金具は、木製の前輪や後輪の縁に取り付けた飾り金具です。鞍は、胸繋や尻繋へつなぐ革帯などを固定したバックルです。

将軍山古墳（行田市）

蛇行状鉄器

鞍の後輪部分に取り付け、旗差し金具として使用したと考えられます。

馬冑（復元）

馬にかぶせた冑です。日本列島では、この資料を含め２例しか確認されていません。

写真提供・埼玉県立さきたま史跡の博物館

埼玉県内出土の馬具

埼玉県内出土の馬具は、出土地不明のものを含め、これまでに約60例が確認されています。ここでは、その中のいくつかを紹介します。

黒田(くろだ)1号墳 (深谷市)

環状鏡板付轡と鐙金具（U字金具・兵庫鎖(ひょうごぐさり)）です。環状鏡板付轡は、鉄製の環を鏡板とする最もシンプルな轡で、実用的な馬具と考えられています。革帯を取り付けて轡を固定する部分を立聞(たちぎき)と言いますが、そこに違いがみられます。鐙金具は、木製の壺鐙に取り付けて吊り下げるために使用しました。

写真提供：深谷市教育委員会

一夜塚(いちやづか)古墳 (朝霞市)

１は十字文楕円形鏡板付轡、２は環状鏡板付轡、３は無脚(むきゃく)雲珠です。下段はＸ線を用いた撮影で、馬具などの金属製品の内部の状況を知ることができます。１の楕円形鏡板は、地板に十字形の文様を配した上板を取り付け、鋲を打っているのがわかります。

写真提供：朝霞市教育委員会

東川端(ひがしかわばた)遺跡 (深谷市)

銅鐸のミニチュアのようにみえますが、馬に吊り下げて使用した馬鐸です。馬が動くたびにベルのように音をたてたと考えられます。青銅製で馬に直接あたる裏面には文様はありません。

写真提供：埼玉県教育委員会

古凍(ふるごおり)14号墳 (東松山市)

周囲の３基の土壙から馬具が出土しています。写真の鐙は、2号土壙から出土した１対の鉄製壺鐙です。スリッパのような形をしていますが、杓子(しゃくし)形(けい)と呼ばれています。

写真提供：東松山市教育委員会

四十塚(しじゅうづか)古墳 (深谷市)

鈴付(すずつき)楕円形鏡板付轡（写真上）と、楕円形鏡板付轡（写真下）です。鈴付楕円形鏡板付轡には、銅製の鏡板に５個の鈴が取り付けられています。銜や引手は、鉄製であったと考えられ、この資料を含め、県内で２例しか確認されていません。

写真提供：深谷市教育委員会

立野(たての)12号墳 (熊谷市)

写真提供：熊谷市教育委員会

金銅製の一枚造りの杏葉で、帯に装着する部分と、花弁状に広がる部分に分かれています。表面にのみ鍍金(めっき)が施され、毛彫(けぼ)り彫刻による文様が刻まれています。毛彫り馬具と呼ばれます。県内では唯一の出土例です。

目沼(めぬま)9号墳 (杉戸町)

同じ鋳型でつくられた鋳銅製の鈴杏葉です。鈴の内部には、石製の丸が入っています。稲荷山古墳の資料に似ていますが、こちらの方が、やや新しいと考えられています。

写真提供：埼玉県立歴史と民俗の博物館
資料所蔵：杉戸町教育委員会

古墳時代の馬具には、いろいろな形や多彩な装飾があったことがわかります。人にとって馬との出会いは、行動範囲の拡大、新しい戦闘技術の受容など、多方面にわたり大きな変革をもたらしました。そして何より、馬は富や権力の象徴であり、馬具は、人と馬をつなぐ、かけがえのない役割を果たしたと考えられます。

さいたま発掘情報

2017年1月～12月

7,000年前の住居跡

❶タタラ山遺跡（白岡市）

遺跡は、大宮台地白岡支台の北部西縁にあたる市内白岡地区に所在します。調査では、縄文時代前期（花積下層式期）の竪穴住居跡14軒、中期（加曽利Ｅ式期）の住居跡１軒が発見されました。

住居跡内からは土器集中が何箇所か認められました。また、調査区内から玦状耳飾と呼ばれるイヤリングが２点出土しました。その内の１点は、かなり薄く仕上げられており、当時の製作技術の高さが窺われます。タタラ山遺跡では、過去の調査でもイヤリングやペンダント等の石製装飾品が５０点以上発見されています。

調査機関・文：白岡市教育委員会

調査区全景

玦状耳飾

縄文時代の住居跡

調査風景

弥生時代の方形周溝墓

❸諏訪木遺跡（熊谷市）

遺跡は熊谷市上之地内にあり、発掘調査は平成28年度から２年間かけて実施しています。

遺跡は縄文時代から江戸時代にわたる複合遺跡で、弥生時代中期から後期と推定される「四隅切れ」の方形周溝墓が２基確認されました。西に隣接する前中西遺跡では、同時期の集落が西側に、集落に伴う墓域が東側に展開しています。今回の調査箇所は、前中西遺跡に近い地点であり、方形周溝墓が確認されたことから、一連の墓域とみられ、さらに東へ広がるものと推定されます。

調査機関・文：熊谷市教育委員会

空から見た諏訪木遺跡（方形周溝墓）

調査風景

甕出土状況

縄文時代後・晩期の道状遺構

❷加能里遺跡（飯能市）

遺跡は飯能市岩沢の、入間川から数えて三番目の段丘崖線下にあります。崖線からは数か所で湧水があり、水資源が豊富な場所です。

今回の調査では縄文後・晩期の帯状に石を敷き詰め、土手状に盛り上げた遺構がみつかりました。さらにこの上に土を被せたような状況もみられました。堅牢に作られており、崖線下のぬかるんだ湿地へアクセスするための足場、つまり道路のような施設だと現時点では推測しています。この遺構に沿って東側へ向かうと同時期の住居跡がみつかった地点に至ります。集落近くの湿地を整備し、利用していたことを示す施設ではないでしょうか。

調査機関・文：飯能市教育委員会

空から見た加能里遺跡

道状遺構

調査風景

出土土偶

土偶出土状況

デジタル三次元測量でみえてきた

❹将軍塚古墳【野本将軍塚古墳】（東松山市）

古墳は、松山台地の南縁辺部、都幾川の氾濫によって形成された低地を臨む場所にあります。墳丘長115mの大型前方後円墳ですが、前期説・中期説・後期説があり、年代が確定していませんでした。そのため、東松山市教育委員会・早稲田大学文学部考古学コースは、デジタル三次元測量、および地中レーダー探査（GPR）調査を実施しました。調査の結果、後円部３段、前方部２段の立体構造を呈する典型的な前期古墳で、後円部墳頂に竪穴系の埋葬施設が位置する点が判明しました。今後は、さらに細かい年代を決めるための研究を進めていく予定です。

調査機関：東松山市教育委員会、
早稲田大学文学部考古学コース
文：早稲田大学文学学術院（城倉正祥准教授）

測量調査風景

空から見た将軍塚古墳

地中レーダー探査風景

造出しと後円部の調査

❺埼玉古墳群二子山古墳（行田市）

さきたま史跡の博物館では史跡整備を目的に埼玉古墳群の発掘調査を進めており、現在は二子山古墳の調査を行っています。平成29年度は古墳の形や埴輪列の状態を確認するために、造出しと後円部を調査しました。造出しは埴輪や土器を並べて祭祀を行ったとされる場所で、二子山古墳の造出しからも大量の土器が出土しました。特に土師器の高坏が多く見られます。後円部の調査では、今回の調査区には埴輪列は残されていませんでしたが、埴輪の破片が出土したことから本来は埴輪を立て並べていた可能性が考えられます。他にも、方形の透かし孔をもつ埴輪や線刻を施した埴輪などが見つかりました。

調査機関・文：県立さきたま史跡の博物館

後円部調査風景

造出し遺物出土状況

線刻をもつ埴輪

方形透かしをもつ埴輪

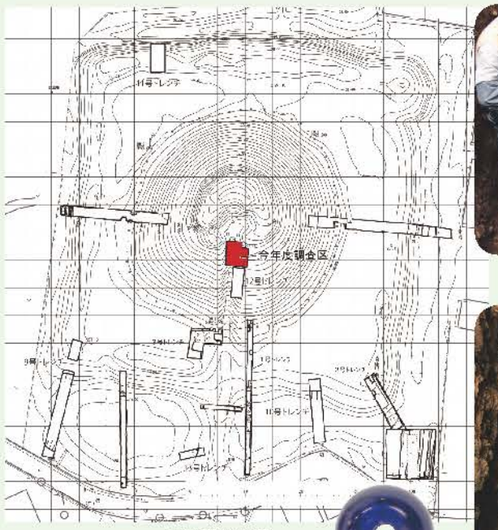
国内最大の上円下方墳

⑥ 山王塚古墳（川越市）

古墳は、川越市大東地区の入間川右岸、武蔵野台地北西縁にある上円下方墳です。大きさは下方部一辺63m、上円部径47m、高さ５mで、古墳時代終末期の７世紀後半に築造された首長墓と考えられます。

前回までの調査およびレーダー探査の結果から、石室は横穴式で３室構造が想定されました。今回は石室の形、幅、素材を確認するため、前室と想定される部分を床面まで掘り下げました。その結果、石室石材の多くは抜き取られていましたが、拳大の円礫を敷き詰めた床、人頭大の角閃石安山岩を積み上げた側壁、門柱石と考えられる緑泥片岩の板材（長140cm×幅60cm×厚10cm）が検出されました。また、須恵器フラスコ形提瓶の破片、ガラス製小玉、鉄釘が出土しました。

調査機関・文：川越市教育委員会



調査区平面図

調査風景

石室のようす

ガラス製小玉

古代の役人の住まい？

⑦ 王神遺跡・拾石遺跡（日高市）

遺跡は日高市高萩にあり、小畔川を南に望む台地の緩斜面に立地します。今回見つかったのは主に奈良・平安時代の遺構で、王神遺跡では竪穴住居跡13軒、竪穴状遺構１基、掘立柱建物跡10棟など、拾石遺跡では竪穴住居跡２軒、竪穴状遺構１基などです。遺物は、多くの須恵器、土師器の他、円面硯や鉄製の鎌が出土しています。

今回、２つの遺跡の中間を調査した結果、遺構の分布が途切れずに続くことが判明しました。これまでに、王神遺跡から鳥形硯（蓋の破片）、拾石遺跡から巡方、丸鞆といった腰帯具（ベルトの飾り）、郡家の施設を指す「厨」と墨書された土器などが出土しています。役人の存在を窺わせる集落であり、周辺に高麗郡の郡家があった可能性も考えられます。

調査機関・文：日高市教育委員会

空から見た王神・拾石遺跡

出土した墨書土器「上」

円面硯の脚部

古代新羅郡（新座郡）の中心集落か

⑧ 大和田カミ遺跡群（新座市）

遺跡群は、柳瀬川右岸の緩斜面にあります。調査では、主に縄文時代と古代の集落跡が見つかっています。古代の調査では、平安時代（９～10世紀）と推定される住居跡が、50軒以上も発見されました。これまでに、市内でこの時期の住居跡は、数例しか見つかっておらず、古代新羅郡（新座郡）の中心集落の一部と考えられ、今回の調査は画期的な成果と言えます。

調査機関・文：新座市教育委員会

空から見た大和田カミ遺跡群

古代の住居跡

調査風景

中世の堀跡を調査

⑨ 滝の城跡（所沢市）

遺跡は所沢市大字城にあり、東川と柳瀬川の合流点の台地縁辺部に立地しています。今回の調査では、大型土塁１・２周辺から、第１号堀跡・第２号堀跡が確認されました。

第１号堀跡は、断面形が箱薬研形の堀で底に高さ70cmの畝（土手）を持った「障子堀」であることがわかりました。また、第２号堀跡は第１号堀跡に直交する形で検出され、接点となる畝が「T」字形にきれいに掘り残されていることから、両者は同時に構築されたものと思われます。

「障子堀」は後北条氏に特有の工法といわれており、大型土塁１・２も含めて後北条氏による構築であると思われます。

調査機関・文：所沢市教育委員会

調査区全景

調査風景

障子堀

滝の城跡縄張り図

発掘！中世の館跡

⑩ 新井堀の内遺跡（蓮田市）

調査区全景

常滑焼甕出土状況

中世の館跡があったとされる遺跡です。今回の発掘で、館を囲っていたと考えられる幅６ｍ、深さ２ｍに及ぶ堀跡が２条並んで見つかりました。このような規模の堀跡は、戦国時代に特有のものと考えられています。堀跡からは、当時のかわらけなどの遺物が出土しました。

また、堀の内側は、館に関連すると考えられる建物の柱穴が密集していました。ほかに井戸跡や、地下式坑などが見つかりました。

館の主については、岩付城主太田資正の家臣野口多門であったと伝わっています。

調査機関・文：（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団

堀跡調査風景

よみがえる栗橋宿

⑪ 栗橋宿西本陣跡（久喜市）

江戸時代の日光道中に設けられた宿場跡で、平成27年度から調査を行っています。

遺跡は、地下約1.5m～２ｍの深さに埋まっていました。度重なる洪水や火災の被害を受け、そのたびに瓦礫を片付け、整地のため土地のかさ上げを繰り返していました。

溝や杭で短冊状に区画された町屋は、日光道中に面して建物が立ち並び、敷地裏手には廃棄物を埋めた土壙や井戸、池などがありました。

土壙や井戸跡からは、陶磁器や漆塗り椀、硯、瓦、煙管、古銭、桶、下駄、文字が書かれた木札などが発見されました。

特に、木札には人名や商品などが記されたものがあり、栗橋宿でどのような商売が営まれていたのかがわかる貴重な発見です。

調査機関・文：（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団

空から見た栗橋宿

遺物出土状況

火災後の整地層と洪水砂の層

火打鎌

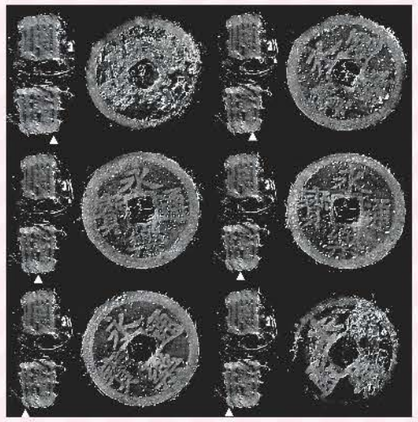
平成２９年度

文化財収蔵施設 新収蔵資料

埼玉県文化財収蔵施設には、県内各地の発掘調査で出土した資料が約40万点収蔵されています。発掘調査で発見された資料は、報告書刊行が終了すると文化財収蔵施設に収蔵され、学校教育、生涯学習、博物館等、様々な場での活用が図られています。

大平遺跡（桶川市）

事業団報告書第424集『大平遺跡』



上の写真は、変形した穀物が炭化し、塊状になって出土したものです。大平遺跡第13号火葬遺構から出土しました。X線CTスキャン撮影の結果、永楽通寶６枚が炭化した穀物に包まれていることが判明しました（写真左）。この塊は、「おにぎり」ではないかと考えられます。火葬にともなう遺構から出土したことなどから、銭貨などが入ったおにぎりを死者に供える風習があったのではないかと推測されます。

X線ＣＴスキャン撮影：東北大学総合学術博物館
X線ＣＴスキャン解析：弘前大学北日本考古学研究センター

楽中遺跡（桶川市）

事業団報告書第429集『楽中遺跡』

写真の大刀は、遺跡内の古墳跡（樋詰６号墳）から出土したものです。鐔や鞘口などの刀装具をともなうもので、鞘口には円形の金具が確認できます。帯取を付けて、大刀を下向きに吊り下げるために用いられた足金物と考えられます。

まいぶん探訪

伊奈町立郷土資料館

伊奈町立郷土資料館は、郷土についての歴史資料、考古資料及び民俗資料の収集展示、管理、調査及び研究を行うとともに、資料の活用を図り、もって教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的に、昭和 58 年 11 月 3 日に寄贈された古民家を利用して開館しました。

その後、町民のニーズや町を取り巻く環境の変化などにともない、町立南中学校の一部を社会教育施設として転用し、平成28 年 4 月 1 日にリニューアルオープンしました。

展示室のようす

縄文時代の展示コーナー（本上遺跡）

本上遺跡出土の顔面付土器

本上遺跡出土の土偶

古墳時代・古代の展示コーナー

展示は、「郷土～伊奈町の地理・歴史・民俗～」をテーマに、歴史系の総合展示を行っています。考古学資料では、本上遺跡出土資料を中心に、学芸員のこだわりが感じられるアットホームな展示となっています。

また、平成元年に重要無形文化財（人間国宝）に認定された「蒔絵」の技術保持者、故田口善国氏の作品も展示しています。

見学風景

人間国宝　故田口善国氏作品展示コーナー

「勾玉つくり体験」などの体験学習の開催も予定されています。詳細は、教育委員会にお問い合わせください。

伊奈町立郷土資料館のご案内

■住　　所　〒362-0806　伊奈町大字小室 3001 番地（伊奈町立南中学校地内）
■開館時間　午前９時から午後４時まで
■休 館 日　月曜日・木曜日・金曜日・祝日（こどもの日、文化の日は開館）・年末年始
■入 館 料　無料
■交通案内　埼玉新都市交通伊奈線（ニューシャトル）丸山駅下車徒歩５分
■問い合せ　伊奈町教育委員会生涯学習課
■電　　話　０４８－７２１－２１１１（代）

埋文さいたま　第61号　平成30年3月24日発行
編集　（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団　〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台4-4-1 TEL0493-39-3955 Fax0493-39-3579
発行　埼玉県教育委員会　〒330-9301 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-15-1 TEL048-830-6888 Fax048-830-4965
※本号に掲載された遺跡・遺物の写真は、各調査機関・管理機関から提供されました。